



## 京都北部（丹後地域）の 弥生時代石製玉類の生産について

田代 弘（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター）

1. はじめに 京都府弥栄町奈具岡遺跡では、弥生時代中期に、鉄製工具類を用いた先進的な石製玉類生産（玉作り）が大規模に行われていたことが判明した。この発見で、丹後地域の弥生時代玉作りの実態が初めて明らかとなった（田代ほか1993・河野ほか1997）。同時に、弥生時代玉作りと鉄製工具に関する議論を大きく進展させる役割を果たした（野島・河野2001）。以上の成果を中心として、丹後地域弥生時代の玉作りを概観する。

2. 丹後の弥生時代玉作り遺跡 丹後地域において、弥生時代玉作りに関連する遺物・遺構が確認されている遺跡は12遺跡である。工房と推測される遺構に伴って未製品類、工具類などが一括出土して確認され、製作された玉の種類・製作工程等を知りうる事例は、弥栄町奈具岡遺跡の1遺跡のみである。これに準ずる事例として加悦町日吉ヶ丘遺跡、志高遺跡や、桑飼上遺跡がある。大半の遺跡では、関連遺物が散発的に検出されているのみである。

### 3. 玉作りの開始と展開

開始 前期に遡る可能性がある（途中ヶ丘遺跡）。中期初頭には確実に始まる（扇谷遺跡）。

展開 中期中頃～後半にかけて遺跡数が増加する。（峰山町途中ヶ丘遺跡、野田川町寺岡遺跡、加悦町須代遺跡・日吉ヶ丘遺跡、舞鶴市志高遺跡・桑飼上遺跡）。

中期中頃に、弥栄町奈具岡遺跡が形成され始める。この遺跡では中期後半にかけて100基に及ぶ玉作り関連遺構が営まれる。中期中頃に、緑色凝灰岩ないし碧玉製管玉を素材とする生産を開始する（東地区）。中期後半にかけて鉄製工具類を伴う水晶製玉類生産へと移行し、遺跡の規模が極大化する（西地区）。玉類とともに工具類も数多く出土しており、弥生時代石製玉類生産の全体像を理解する上で重要な資料群といえる。

衰微 後期にはいると、生産は小規模化し、衰微する。宮村遺跡・谷内遺跡・古殿遺跡で1、2点の緑色凝灰岩ないし碧玉製未製品の出土を見るのみとなる。この時期以降、緑色凝灰岩ないし碧玉製管玉は、北陸製など、他地域で作られた製品が主体となるようである。

4. 玉類の副葬と流通 墓への玉類の副葬は、中期段階では碧玉ないし緑色凝灰岩製管玉が主体をなす（志高遺跡・日吉ヶ丘遺跡）。後期には、これに加えて、舶載原料を用いて作られたガラス玉類が顕著となる。カリガラス製の小玉と鉛ガラス製の勾玉である。ガラス製玉類は1万3千点を超え、対馬と双壁をなす出土量といわれる（大阪府弥生文化博物館2002）。このように、後期には玉類副葬の主体はガラス製品へと移行する。多数の鉄器類とともに、丹後の弥生墓制を特徴づけることとなる。

### 参考文献

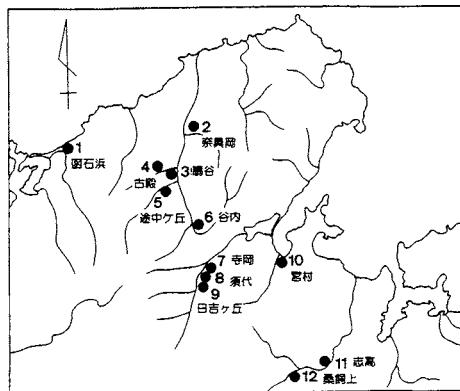
田代 弘ほか「奈具岡遺跡第4次」『京都府遺跡調査概報』第55冊（財）京都府埋文センター 1993

河野一隆ほか「奈具岡遺跡第6・7次」『京都府遺跡調査概報』第76冊（財）京都府埋文センター 1997

河野一隆「玉作りと鉄器文化」『第4回鉄器文化研究会 東日本における鉄器文化の受容と展開』鉄器文化研究会1997

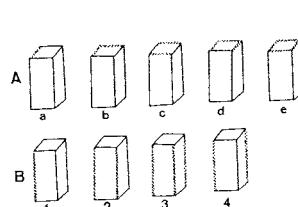
野島永・河野一隆「玉と鉄 - 弥生時代玉作り技術と交易 - 」（『古代文化』第53巻第4号 通巻第507号）（財）古代學協會 2001

『青いガラスの燐き 丹後王国が見えてきた』大阪府弥生文化博物館図録24 大阪府弥生文化博物館2002



1: 時期不詳 2: III~IV 3: II 4: V末か  
5: III~IV (前期に遡る可能性あり) 6: V末か  
7: III~IV 8: III~IV 9: III~IV 10: V末か  
11: III~IV 12: III~IV

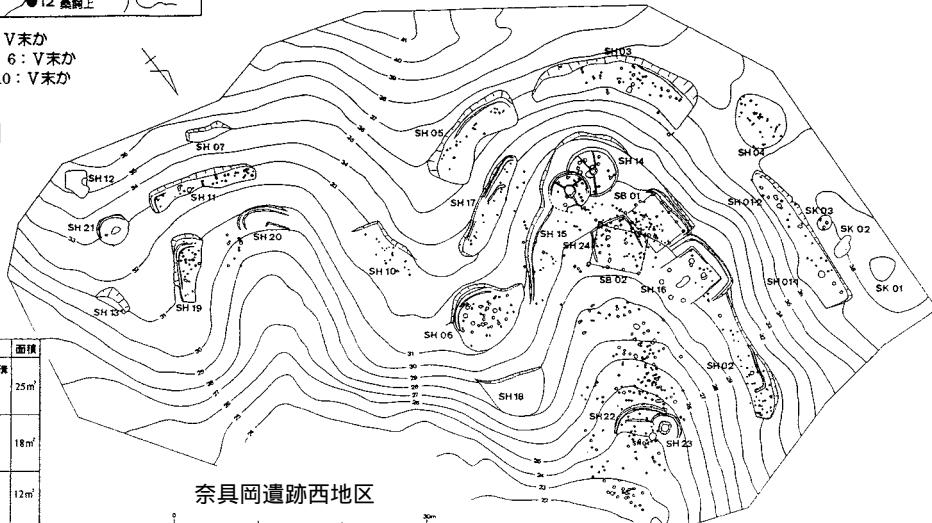
丹後地域玉作り遺跡分布図



角柱体施構部位模式図  
破綻は、擦切部位  
『下谷地遺跡』による。

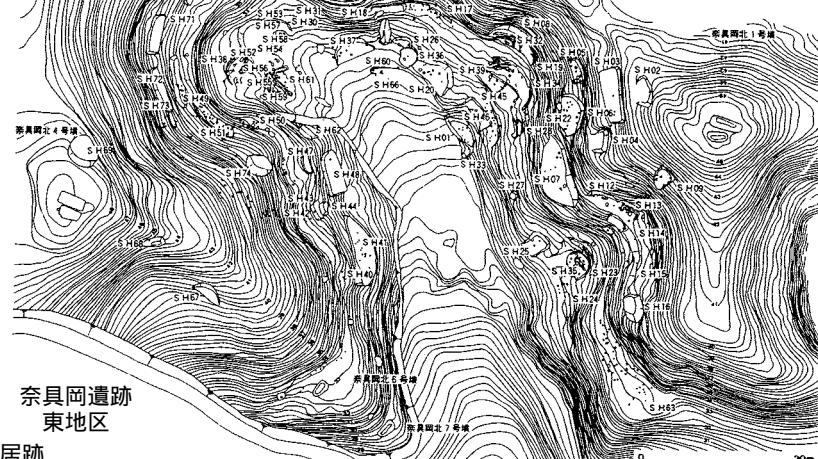
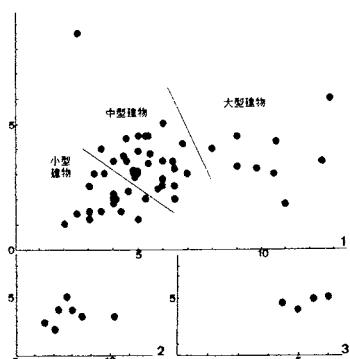
S H23出土石針角柱体及び碧玉・  
緑色凝灰岩擦切施構部位別計測表

	安山岩	瑪瑙	碧玉 緑色凝灰岩
A a	82	42	0
B b	29	36	0
A c	47	15	0
B d	26	39	0
A e	8	20	0
B 1	2	0	101
B 2	4	0	51
B 3	1	0	14
B 4	0	0	9
総 数	199	152	175



形態	名称	住居の特徴と類別	面積
円形		円形プラン・床面に防護用の敷村状構 SH01・23・28・33・35・37	25m <sup>2</sup>
方形		方形プラン・周壁溝有り SH25・45・49・51	18m <sup>2</sup>
小型 方形		小型方形で主住穴が不明瞭 SH02・04・05・09・11・25	12m <sup>2</sup>
テラス 状		テラス状・周壁溝有り SH02・22・24・26・27・29・32 36・39・40・46・48・50・74	19m <sup>2</sup>

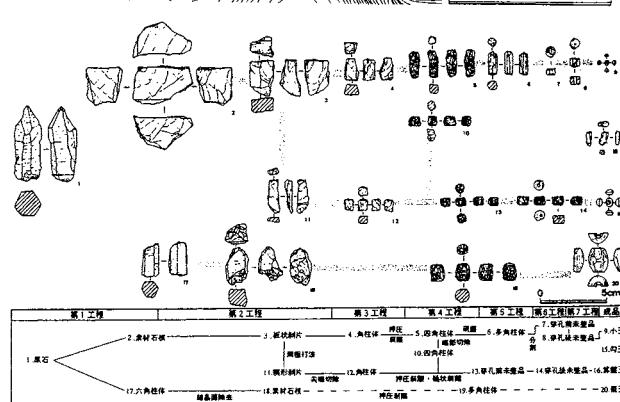
奈具岡遺跡住居跡・平面形分類



1:住居跡全体 2:円形住居跡 3:方形住居跡

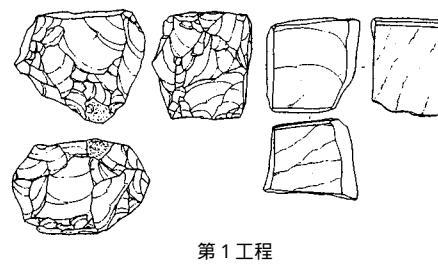
住居	位置	総量	住居	位置	総量	住居	位置	総量	住居	位置	総量
S H01	全體	11125g	S H11	埋土	90g	S H27	床面	160g	S H48	全體	123g
1層	250g	S H12	埋土	60g	S H28	埋土	220g	S H50	全體	80g	
2層	60g	S H13-14	表探	5g	S H29	埋土	38g	S H53	全體	830g	
3層	280g	S H17	全體	65g	S H30	流土	40g	S H54	全體	110g	
4層	850g	S H18	埋土	270g	S H32	全體	680g	S H55	全體	81g	
5層	470g	S H19	壁構	50g	S H33	全體	575g	S H56	埋土	414g	
6層	1g	S H20	全體	7098g	S H34	全體	9040g	S H57	埋土	637g	
7層	1g		炉1	2g		炉部分	180g	S H59	埋土	60g	
床面構造中	1290g		炉2	2g		床面	15g	S H60	埋土	20g	
流土	2186g		盤構	130g	S H37	流土	790g	S H61	全體	265g	
表様その他	5727g		砾石付近	80g	S H38	埋土	920g		埋土	120g	
S H05	床面	30g	S H23	流土	54g	S H39	全體	3103g	埋土上面	20g	
S H06	埋土下層	295g	S H24	流土	65g		40g		埋土	110g	
S H07	全體	110g	S H25	床面	20g	S H40	60g	S H64	全體	150g	
S H08	床面	705g	S H26	全體	708g	S H41	全體	290g	S H66	床面	180g
S H09	流土中	40g	S H27	床面	315g	S H45	全體	50g			

水晶製遺物出土一覧

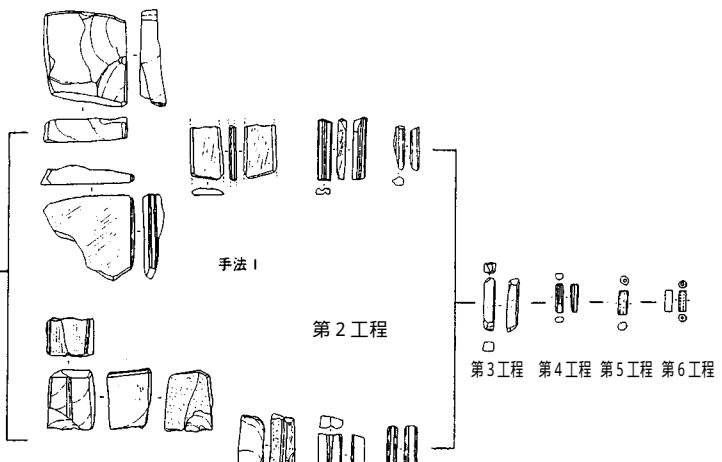


水晶玉作り工程 (河野案)

奈具岡遺跡  
碧玉・綠色凝灰岩製管玉製作工程  
(田代案)



第1工程

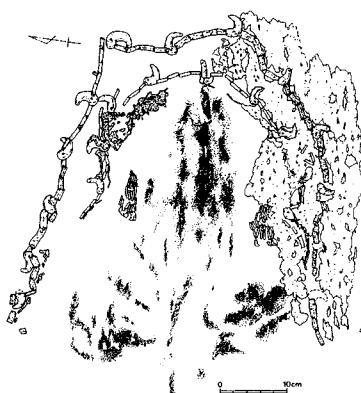


第2工程

第3工程 第4工程 第5工程 第6工程

手法I

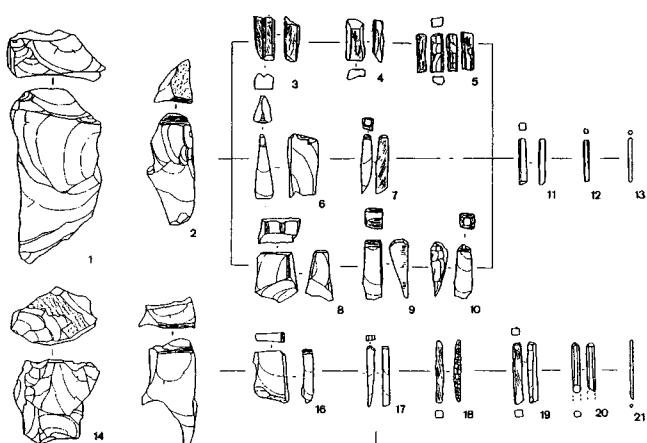
手法II



赤坂今井墳丘  
墓第4主体部  
出土玉類  
管玉はガラス

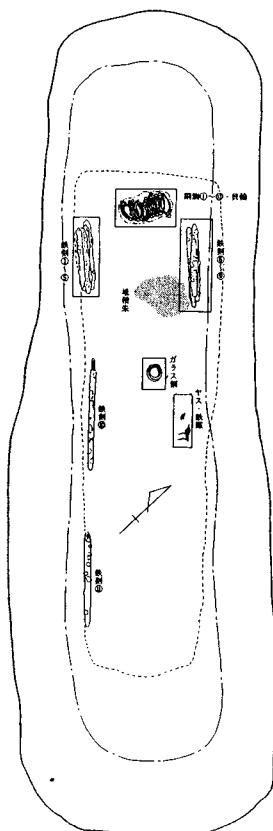


同上頭飾り復元図  
(壹岐一哉案)

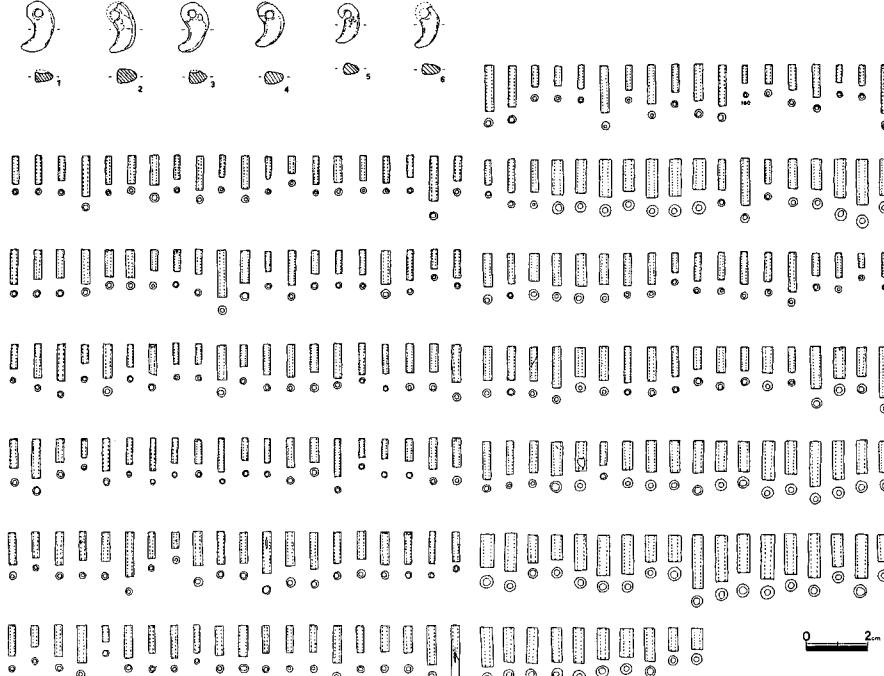


奈具岡遺跡石針関連資料(田代案)

1~13: 安山岩  
14~23: 玉髓



大風呂南1号墳  
第1主体遺物出土状況



第1主体出土玉類(管玉は綠色凝灰岩)